

カメラヤG ネット戦略高度化で提携 新工法なども導入

カメラヤグローバル（本社大阪府岸和田市、高橋純社長）は、事業強化を進める。定期借地権活用の土地取得システム・エルカトランシステムのFCを立ち上げたほか、

新たに制震工法および断熱工法を導入した。また、住宅建築支援サイト運営のアンック（本社東京都渋谷区、森山高至社長）と提携。同社のネットワーク活用による各種商材が狙い。地価の高い好立地で土地を保有する地主から、定期借地権を利用して土地を借り、土地+建物の総額を抑えることなどで市場競争力を高める。これまで積み重ねてきた定借ビジネスを戸建てに応用した。FC形態で普及を図る。

住宅では、さらなる性能向上に寄与する新工法を導入した。耐震面では、アクリル樹脂を粘弾性体に使った制震タンパーで、震動エネルギーを熱エネルギーに変換し揺れを吸収するGVA工法を採用。同工法住宅「制震カトラン」をラインアップした。室内環境への対策では、外断熱材の内側に、断熱・調湿機能を持つ羊毛製断熱材「サーモウル」を使用するT1工法を取り入れた。床下のベタ基礎上部に置く竹炭ゲル（シリカゲル+竹炭）とを合わせ、快適な室内環境を実現させる。

また、商材発掘とネット戦略の高度化を目的にアンックと提携、メリッ

トをFC事業に反映させる。アンックはネット上で住宅建築支援サイト「建築Web.com」を運営。住宅の計画から完成までの各段階で、Webコンペなどを手がける。同サイトには建築士事務所約1300社、工務店約800社、建材メーカー約300社が登録している。

当面、アンックが持つ商材・資材情報で、有益と判断されるものを採用する。ネット戦略で助言を受けるとともに、将来的には住宅の建築デザインについての連携なども、視野に入りたい考えだ。

出典：住宅産業新聞
平成 19 年 10 月 31 日